

『今が、歴史を創る時』 個々人がつむじ風を起こそう

第17回 起業して9年、『出会ったことは、2つだけ』でありました。『楽しいことと、学ばせていただいたこと』の2つであります 永田 隆一

私は、45歳と2カ月で、『ふうっ』と起業を決意しました。サラリーマンを21年、日本の企業で10年、米国シリコンバレーの企業で11年を体験した後でありました。

振り返ってみますと、山あり谷ありでありました。しかし、出会ったことは、2つだけあります。

- 1) 楽しいこと
- 2) 学ばせていただいたこと

それ以外は、何も、本当に思い浮かびません。

さて、会社では、会計関連の資料を、7年間保管しておかなければならないという法律があります。私は、第1期の資料を丁寧に読み返し、シュレッダーにかけながら、思い返し、考えたことがこの2つでありました。

《悩み続けた10年》

私がサラリーマンだった時代には、まったく、考えたことがなかつ

たことでありました。

『いただいているフィー（業務委託料）に見合った、アウトプットを提供できているだろうか？』

『多少コンプライアンス上疑問があるクライアントに、当方から契約解消を通告したが、売上が継続できるのに、格好をつける必要なんかないんじゃないか？』

『これだけお世話になっている方に、なぜ弊社は、結果で恩返しができないのか？』

白か黒かの答えを聞かれても、答えることができないことが、よくありました。黒に近いグレーや、白に近いグレーや、白と黒の中間のグレーという答えもあるのであります。色々なことを考え、悩みました。きっと、一生こういった自問自答を続けていくのでありましょう。

《いただいて、嬉しかった言葉》

起業を決意した私は、尊敬する先輩15人に、アドバイスを求めました。

平澤正勝さんのコメントは、

『永田、やってみろ、君なら失敗しても、必ず成功する』(笑)

鈴木雄二さんは、
「一寸先は、パラダイス。僕が骨を拾いま

す。一本だけですが、きっちり線香をあげます」(感謝)

池田一志さんは、
「どんな会社をつくるのかわからないけど、お前がやるなら、一本だけ出資させてくれ」と。100万円を出資してくれました。(涙)

《10年後に…》

仲間と、お酒をいただきながら、10年後について話すことがあります。

阿部信行さんは
「妻が、幸せならそれだけでいい」
鈴木雄二さん(49歳・独身)は
「不破保博夫婦の仲人で、下賀茂神社で、結婚式をあげています。そして、子供が2人いるはずですよ」

大山聡さんは
「半導体業界の坂本龍馬といわれていると思います。私が、日本の半導体業界を、必ず復活させます」

弊社の取締役会長(82歳・写真中央)は「できることなら、そこまで生きていたいよう」

伏見在住のFさんは
「京都祇園のラポーでリサイタル。私のそばに、美しい女性3人が座っている。彼女たちを、その横で見ている、可愛い妻が笑みを浮かべている」。

(毎月掲載)



神楽坂オフィスでの会議後